

地域連携室

- 松浦 栄二
- 杉之内 舞
- 神田 和美
- 蓮池 典明



私たち地域医療連携室の主な業務は、患者さまやご家族さま、そして、近隣の病院からの相談業務になります。相談内容で最も多いのは、患者さまの入院および退院後のケアについての相談、近隣病院からの患者さまの受け入れに関する相談などですが、時には、入院中の洗濯や外出時の服装の相談なんていうもので…。とにかく、何か分からないことがあれば地域医療連携室に声を掛けていただけるよう、日々院内を走り回っています。

患者さまのご希望・ご要望をできる限りかなえるのが私たちの仕事ですが、例えば、退院後のケアに関するご相談などの場合、ご家族と患者さまの考え方が違うというケースが多々あります。必要な場合は、話し合いの場にドクターなどに加わってもらい、調整を行うわけですが、関係者全員が納得できる解決策を見つけることが一番難しいです。病気になると、さまざまな症状が出てくると同時に、働けない、介護ができないなどの社会的な問題も起こります。そのため、医療と福祉の知識を持ち合わせたソーシャルワーカーが社会的な資源の紹介を行います。また、病気になって不安な患者さま、ご家族さまの精神的な

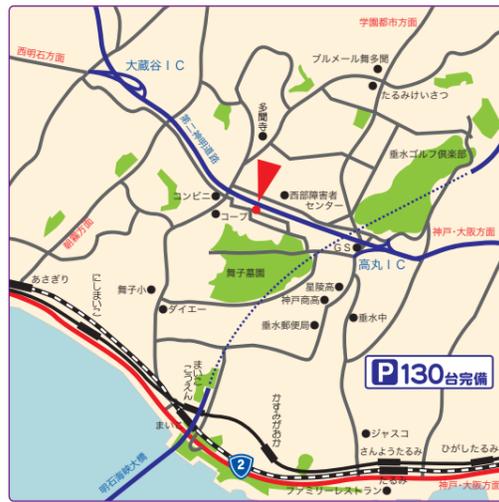
フォローを行うことも重要な業務の一つになっています。今後は、当院だけでなく、近隣の病院の窓口としての機能を強化し、地域の医療情報を集約する役割も担っていきたくと考えています。その一つの取り組みが、本広報紙の企画・発行業務です。院内はもちろん、地域の病院や関係機関とさまざまな情報交換を行い、広報紙を通して患者さまや地域の病院に、有益な医療情報を発信していければと考えています。

当院は、地域の病院の核になることをめざしていますので、地域連携室は、地域の医療窓口のような存在をめざしたいですね。患者さまにも地域の病院関係者の方にも、地域医療連携室をうまく使っていただき、地域における医療情報の充実、医療体制の連携が強化されるよう、今後も積極的に活動を続けていきたく思います。

ソーシャルワーカー



杉之内 舞 神田 和美



- JR舞子駅・山陽電車 舞子公園駅から
53・54系統 学園都市駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分
- 神戸市営地下鉄 学園都市駅から
53・54系統 舞子駅行 西岡橋停留所下車 徒歩5分
- JR垂水駅・山陽電車 山陽垂水駅から
2系統清水が丘行 清水が丘停留所下車



〒655-0031 神戸市垂水区清水が丘2-5-1
TEL : 078-785-1000 FAX : 078-785-0077
編集・発行：地域医療連携室
診療科目：内科、消化器センター（消化器内科・消化器外科・
内視鏡治療・化学療法）、緩和ケア支援部門、整形外科、
リハビリテーション科、婦人科、放射線科

URL : <http://www.sano-hospital.or.jp/>

理念 **医** 地域医療への貢献 患者さんの立場に立った医療
経 健全な経営 着実に前向きな病院の発展
倫 悔いなき職場 生活と人格の向上

- 方針
1. 私達は、患者さんの病を癒し、苦しみを和らげ、延命に努めることを誓います。
 2. 私達は、患者さんの人格・人権を尊重し、合意を旨とし、信頼に応えることを誓います。
 3. 私達は、法を遵守し、過誤を防ぎ、生涯、医の知識と技術の研鑽に励むことを誓います。
 4. 私達は、職員相互の職分を理解し、尊敬し、協力して患者さんの医療に当たることを誓います。

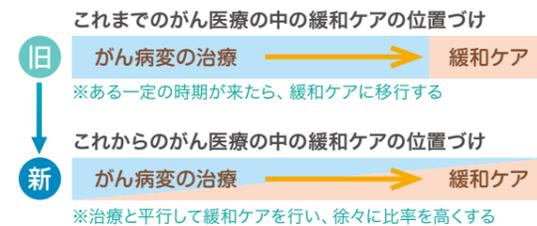


緩和ケアの役割と佐野病院の特色 継続性あるがん治療と緩和ケア実現のために

がん患者の増加に伴い、佐野病院内に緩和ケアサポートチームが立ち上がったのは2年前。今やがん治療に欠かすことのできない緩和ケアに対して佐野病院はどのように取り組んでいこうとしているのでしょうか…。
緩和ケアの現状をレポートするとともに、理想的な緩和ケアについて、あらためて考えてみます。

■がん治療における緩和ケアの位置づけ

往來、緩和ケアとは、積極的治療（病気そのものの根治をめざした治療）がすべて終了した後に行う処置であると理解されてきました。しかし、現在では、ある特定の時期に「治療」から「緩和ケア」に移行するのではなく、がんと診断された当初から手術や薬物療法と並行して緩和ケアを行うべきという考え方が一般的です。



今後はこれらの治療と一体となった緩和ケアの実施が、さらに望まれる社会になってくると考えられます。

■医療現場における緩和ケアの実情

緩和ケアに対する考え方が大きく変わっていく一方で、高度ながん治療が可能な大病院では、治療の複雑化に伴い治療後の緩和ケアにまで手が回らず、転院を余儀なくされるケースが多くみられるようになりました。また、緩和治療を専門的に行う医療機関として“ホスピス”がよく知られていますが、施設数やベット数の不足から、全ての緩和治療を“ホスピス”に依存することができない実情があります。

このような理由から、当院のような中規模の後方病院には多くのがん患者さまが紹介されています。これらの現状を踏まえて、当院では以下に示す対策を講じています。

■地域完結型(切れ目のない)がん治療

当院の消化器センターでは、国立がんセンター出身の医師などによる、専門的ながん治療（内視鏡治療・外科手術・抗がん剤治療）を受けることができます。放射線治療などの特殊な設備が必要な治療については、専門施設で紹介する場合がありますが、原則的に自施設で治療を完遂します。従って、途中で治療が行き詰まったなどの理由による転院の心配がありません。このような環境の下では、症状コントロールを目的とした緩和ケアを早期の段階から導入できますので、病気に対する直接的な治療と緩和ケアを同時並行で切れ目なく受けることができます。

当院では、個別の患者さまの病状について理解している医師が緩和ケアにも関わるため、その満足度は必然的に高まり、結果的に理想的ながん診療の環境構築につながります。もちろん、紹介されてきた患者さまには、先に述べた現状を十分理解していただいた上で、地域のクリニックの先生にも協力いただきながら、療養生活の支援を行っています。今後も当院では、地域の皆さまにとって理想的ながん診療を提供するために、地域の病院の利点を生かし、皆さまの信頼に応えるベストな医療の提供をめざしていきます。

Profile

蓮池 典明 (ハスイケ ノリアキ)

【診療科目】消化器センター外来・内科
【専門分野】消化器内視鏡および消化器内科
【経歴】国立がんセンター中央病院 内視鏡部、静岡県立がんセンター 内視鏡科 副医長などを経て、平成19年より当院に勤務。2年前から緩和ケアサポートチームのリーダーとして、よりよいがん治療、緩和ケアに取り組んでいる。



CONTENTS

特集：佐野病院の緩和ケアレポート
専門知識が集結 多職種によるケアサポートチーム
緩和ケアサポートチーム 看護師リーダー
岩佐 美佳看護師 P.02

ドクターの紹介
内科・消化器科医師 岩館 峰雄先生 P.03
健康コラム
佐野病院院長(消化器センター外来・内科) 佐野 寧先生 P.03

特集

専門知識が集結 多職種によるケアサポートチーム

緩和ケアの最大の難しさは、置かれている状況も症状も異なる患者さま一人ひとりにとって、ベストなケア方法を選択しなければならないことです。その選択のために必要となるのが、多くの知識と知恵です。佐野病院では、多職種のスタッフがチームを組むことで、さまざまな意見を出し合い、一人ひとりの患者さまに最適な緩和ケアの実現をめざしています。



アロマセラピーによるケアの様子

佐野病院緩和ケアサポートチームの構成

- ① 医師（連池、岩館）
- ② 看護師（病棟看護師、外来看護師）
- ③ 薬剤師
- ④ 理学療法士
- ⑤ 管理栄養士
- ⑥ 医療ソーシャルワーカー
- ⑦ 医事課職員



以上の15名前後のメンバーから構成されています。

POINT その①

個別の症状に促した緩和ケア

患者さまの病態を理解している医師が継続的に緩和ケアに加わるため、がん治療から継続的なケアへとスムーズに移行できる、独自のケア体制を構築しています。

POINT その②

他部署間の密なネットワーク

大きな病院に比べ、各科間の垣根が低く、医師、看護師、ソーシャルワーカーなど、それぞれの専門知識と持ちうる情報を結集することで、患者さま一人ひとりに合わせた柔軟なケアを実現しています。

POINT その③

豊富な選択

知識と経験が豊富な医師が多いため、取り扱うことができる薬の数が他病院に比べて圧倒的に多く、積極的なケアに対応することができます。また、症状によっては、内科的な処置だけでなく、外科的処置を組み合わせるなど、多様な処置を実施することも可能です。さらに、看護師の意見を取り入れたアロマセラピーを用いたケアなど、多職種のチームならではの独自の治療も、持ち味となっています。

POINT その④

豊富な医療情報

先進の病院で研修を積み、高度な技術と知識を持つスタッフの情報ネットワークを積極的に活用し、最新の情報、正確な情報を緩和ケアに役立てています。

理想的な緩和ケアを追求



緩和ケアサポートチーム
看護師リーダー

岩佐 美佳

がん治療における痛みや吐き気など、さまざまな不快な症状の緩和を目的としたケアが「緩和ケア」です。がんと闘っている患者さまが、できるだけ自由で快適に過ごせるようにケアするのが私たちの役割ですから、ご要望に合わせ、できるだけ細かいケアを心がけています。

具体的には、夜ぐっすり眠りたい方なのか、日中を活発に過ごしたい方なのか、子育てに忙しい母親の患者さまなのか、仕事をバリバリこなしたいビジネスマンの方なのか…。それぞれのライフスタイルに合わせて、痛み止めを打つタイミングや使用する薬を変えて、患者さま一人ひとりに合わせたケアを行います。当院の緩和ケアは、痛みの出方など、その時々症状と、患者さまの生活環境に合わせて細かい指示が出るので、柔軟な処置ができる点が特長だと思います。

一番大事なのは、患者さまの人生設計であり、ライフスタイルに関するご要望です。そのことを常に頭において、患者さまががん向き合っている間は、私たちと一緒に頑張りたいと思っています。



Information

Introduction

ドクターの紹介

患者さまの気持ちを考えた医療を



Profile

岩館 峰雄 (イワタテ ミネオ)
【専門分野】
消化器がん診療 (特に大腸)
【資格・認定医など】
日本内科学会認定内科医
日本癌治療学会癌治療認定医
2010年4月 佐野病院入職

■分かりやすい医療がポリシー

私の医師としての原点は、鼻の手術を受けた19歳のころにあります。全身麻酔の手術で、想像以上の不安に押しつぶされそうでした。しかし、そんな不安も、担当ドクターが検査と手術の内容を非常に丁寧に説明して下さったことでウソのようになり、とても安心して手術に臨むことができたのです。

この経験を通して、患者さまの不安に思う気持ちをよりリアルに感じることができるようになったと同時に、医師として、患者さまを不安にさせないために、誰にでも分かる言葉や喩えを使って、治療内容を理解できるように伝えることを重視するようになりました。知識を患者さまに正しく伝え、患者さま自身が治療方法を選択できることが真の医療である、というのが私の考えです。

■できるだけ多くの人を救いたい

消化器科の専門医になったのは、医者になるために得た多くの知識を患者さまに還元し、できるだけ多くの人

を助けたいとの思いからです。より多くの人を診る機会がある内科、そして、臓器の中で最も広い面積を占める消化器を扱うことが近道だと考えたからです。

消化器内科としての実績を重ねる中で、内視鏡の技術を高めたいと思うようになり、静岡県立がんセンターの内視鏡科でじっくりと腕を磨きました。特に大腸がんは、内視鏡でポリープを除去することが最も有効な治療法です。内視鏡技術の向上は、自分にとっての課題でもありました。

■大腸がんの撲滅をめざして

当院は、スタッフ間のコミュニケーションが取りやすいため、仕事もスムーズに進みますし、治療の選択肢を増やすことにもつながっていると感じます。

さらに、がんセンター出身の医師が多く、知識・技術ともに非常にレベルが高いため、刺激を受けることも多いです。今まで大病院でしか受けることができなかった高度な医療を地域の病院で提供できることは、患者さまにとって、これ以上ないメリットではないでしょうか。

地域で気軽に検査を受けていただき、レベルの高い診断と治療をスピーディーに提供する。このような医療環境の提供をめざす当院において、私も自身の大きな目標である「大腸がんの撲滅」のために力を尽くしていくつもりです。



気になる話題 PICK UP!

【食中毒予防のポイント】

佐野病院院長 (消化器センター外来・内科)
佐野 寧

これからの季節は、気温が上昇し、湿度が高くなるため、腸管出血性大腸菌をはじめとする食中毒の原因となる菌が増殖しやすい環境となります。

食中毒は外食だけでなく、家庭でも発生しています。ここでは、家庭でできる食中毒予防のポイントをいくつか紹介します。

まず、私たちの手には目に見えないさまざまな雑菌やウイルスが付着しています。その手を洗わずに食材や食器などを触ると、手を介して、それらにも食中毒の原因となる菌が付着してしまいます。手洗いは食中毒を防ぐために、最も簡単で重要な予防法です。手が汚れた時だけでなく、調理前や食事の前には、必ず手を洗いましょう。

次に、食べ物に付着してしまった菌を増やさないためには、

低温で保存することが重要です。生鮮食品やお総菜など、冷蔵の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫に入れましょう。なお、冷蔵庫に入れても、細菌はゆっくりと増殖しますので、冷蔵庫の温度管理に気をつけ、早めに食べることが大切です。

ほとんどの細菌やウイルスは加熱によって死滅します。特に肉料理は、中心部まで十分に加熱 (75℃で1分以上) し、生焼けのまま食べないようにしましょう。

また、ふきんやまな板、包丁などの調理器具にも、細菌やウイルスが付着します。使った後の調理器具は、洗剤でよく洗い、熱湯などで殺菌し、しっかり乾燥させましょう。

「つけない」「増やさない」「殺菌する」の3つを守り、食中毒を予防し、楽しい季節をお過ごしください。